

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)
～「第2波」に備えて～

＜略称“六角橋アラート”＞

5月末に『新しい教会生活』ガイドライン』を発行して2か月半が過ぎました。この感染症も、「すでに第2波に入っている」とする専門家もいるように、再拡大の勢いが止まりません。そこで、先週2日の8月定例役員会では、六角橋教会の対応について詳しく検証しました。その結果8月9日(日)から、再び分散礼拝>にすることが承認されました。その経緯を、ぜひ皆様にも知っていただきたく、こうしてまたプリントを発行することになりました。大切な点は以下のとおりです。

- **警戒レベル** 現在の【レベル2】を、【レベル4】に引き上げる。(裏面、③を参照)
- **期間** 8月9日(日)から9月13日(日)までの6週間とする(但し、情勢によっては延長有り)。
 - ＜出席地区＞ *六角橋、緑区・青葉区・都筑区・市内 ⇒ 8/9、8/30
 - *港北区、県内 ⇒ 8/16、9/6
 - *神奈川区、東京都、千葉県・埼玉県他 ⇒ 8/23、9/13
- **目的** 礼拝出席者を制限し、健康および衛生管理をさらに徹底することで、教会における「濃厚接触」の機会を大幅に減らすため。
- **理由** 公的な緊急事態宣言や外出自粛要請が出ているわけではなく、あくまで自主的・予防的措置として実施。
- **お願い**
 - ア) 礼拝出席者は、事前にお届けした週報ほかの印刷物をご持参ください。
 - イ) 礼拝奉仕者(司会者・奏楽者・当番役員・礼拝当番・その他の奉仕者)は、すでに予定されたとおりに依頼するが、少しでも不安のある方は、遠慮なくお断りいただきたい。
 - ウ) 祈祷会や会議は、予防策(人との距離・換気・消毒・談話の抑制・時間制限)を徹底して行う。
 - エ) 微熱や咳など風邪の症状があるときはもちろん、倦怠感、嗅覚や味覚の異常、吐き気、下痢など、少しでも体調に異変を感じた時には、礼拝出席を控えて下さい。(次の機会が必ずあるので)
 - オ) もし本人や身近な人の感染がわかったら、保健所だけでなく、教会にも連絡をして下さい。
☞これを受けて教会も、保健所の指導を仰ぎ、必要があれば教会連絡網で知らせるなど、必要な対応を、すみやかに、かつ、ていねいにおこないます。

この感染症は、「感染しない、させない」という気持ちが大切です。しかし、どれほど気を付けていても、感染してしまうことがあります。礼拝出席者の中から感染者が発生することもあるでしょう。その時、感染者となった方は、「教会の仲間に移してしまった」「自分が感染を広げてしまった」と、きっと悲しい思いになることでしょう。しかし、そうであっても、その方の健康回復をまず第一に祈り、そのためにできることがあれば何でもするのが教会です。

こうした中で、私たちに必ずできることがあります——それが、多くの人が集まって起きる「濃厚接触」のリスクを、少しでも減らすことです。一人ひとりが高い意識を持ち、みんなで協力することによって。

いつもより少ない人数ではあっても、こうして集まり、これからも安心して礼拝できるよう、またご家族やご近所の理解と信頼をこれからも得られるよう、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

こうした方針を決めるにあたって話し合われたことを、次頁にまとめました。ご参考まで。

- ① “緊急事態宣言”は解除されているが、8月中は教会員に次のように改めて呼びかける。
- ア) 礼拝に出席することを「当然視」するのではなく、(神にも、周囲の人にも)「コロナ禍にあっても、今朝はゆるされている」という意識を大切にしたい。
 - イ) ふだんから「ご事情でいられられない方のために」と祈っているが、さらに「コロナ禍で敢えて出席を控えている方々のことも憶えて」と、真剣に祈る群れでありたい。礼拝に出る一人ひとりが、このことを胸に刻んで、出席してほしい。
 - ウ) 「平和を考える月・8月」は、「他者への思いやり・いたわり」を、「礼拝共同体」の仲間同士から始めて、「家族や隣人」へ、さらには「社会、世界」へと広げていくことを心がけたい。

② 感染症に関する公的な数値や信頼できる専門家の見解を引き続き注視し、教団教区および他教会の動向と、当教会の出席状況の動きに注目し、総合的に判断する。

- ア) 「発症率」と「重症率」についての情報に引き続き注意する。
- イ) 教団常議員会や教区常置委員会開催状況、東京・神奈川にある教会の動向をウェブサイトで調べ、参考にする(8/2 現在では、通常礼拝 1 教会、出席制限 9 教会、礼拝出席停止 2 教会)。
- ウ) 当教会の出席状況の動きを注視する。(通常礼拝再開以降の出席者数は、以下のとおり)
 - ☞7/12=107名 ➡7/19=86名 ➡7/26=72名 ➡8/2=98名

③ 最終的に、社会情勢として再び自粛要請レベルが上がり、教会員の健康状態や周囲への配慮から礼拝出席を抑制する必要があると判断した場合、下記の「六角橋教会コロナ対応警戒レベル」(「六角橋アラート」と名付ける)をもとに対応し、ただちに教会連絡網およびホームページで周知徹底する。

■レベル5■ : 礼拝出席を最小限に限定

☞教職、当番役員、事務スタッフが出席

■レベル4■ : 分散礼拝第1段階 (座席間隔2.0m、50名前後)

☞居住地域別に3つのグループに区分。3週間に1度の出席。

(☞6/7~21)

➡8/9~9/13

■レベル3■ : 分散礼拝第2段階 (座席間隔1.5m、70名前後)

☞地域別グループを2区分に緩和。多い人で、2週間に1度の出席。

(☞6/28~7/5)

■レベル2■ : 礼拝出席に制限を設けないが、集会は祈祷会以外すべて休会。(☞7/12~8/2)

☞座席は、レベル3と同様の座席間隔とし、制限人数を越えた人は、1Fホールで動画配信を視聴。

☞オンラインのアクセスがないまま自宅礼拝を守る方のためには、週報内容の事前配布や説教プリントの送付を個別に受け付け。

☞集会は祈祷会のみ。委員会も役員会と教師会・季刊のみ。他の委員会はメールか休止。

■レベル1■ 感染症対策を施したうえで、開催が可能な集会から再開。

☞そのために委員会を開催。

☞集会や活動を、どのような形で再開可能かを検討する。

④ 個別事例の再検証 (一部、検討中の事項を含む。太字は、新たに導入する事項。)

- ア) 検温の徹底——非接触型体温計を購入。玄関で、当番役員が、来会者一人ひとりおこなう。
- イ) マスクをお持ちでない方へ——忘れた方には、予備のマスクをお渡しする。
- ウ) 礼拝や集会の時間——1時間以内を目指す。一定時間(45~60分)を過ぎたら、一定時間(10~15分)換気をする。
- エ) 礼拝時の講壇上では——講壇に透明の亚克力板を講壇に新設するかを検討。それまでの間、司会者は、マスクを常時着用。説教者は、マスクまたはフェイスシールドの使用も検討。
- オ) 賛美の仕方——オルガンのみ、ハミングで、各曲1節のみという教会が多い中で、六角橋教会ならではの賛美の仕方を、礼拝後の讃美歌練習を含めて模索する(8月月報裏面参照)。
- カ) 献金の集め方——接触リスクを抑えるために、長い柄のついた献金かごを使用。出席者それぞれが、内側の通路に寄って献金をささげる。
- キ) 備品の消毒の徹底——礼拝前・礼拝後だけでなく、気が付いたら当番役員がおこなう。
- ク) 換気方法——立地条件から会堂は南北の風がよく通るので、礼拝中は、以下10か所の窓を開放。
 - ☞2F : 講壇上×3、2F礼拝堂最後部両脇×2、週報ポスト両脇×2
 - ☞3F : ギャラリー席両側×2、3Fホール南側×1
- ケ) 役員会前や平日来会時の昼食——近くで向き合わず、横並び、または互い違いに。歓談は極力控える。
- コ) オンライン礼拝——出席できない方、出席を自粛している方たちのために継続。
- サ) 週報等印刷物——レベル3以上の場合、自宅礼拝をサポートするために、事前に郵送。

(以上)